

口頭発表 08

薬剤疫学・医薬品情報・IT 化

2018 年 9 月 23 日 (日) 17:10-18:10
第 5 会場 | ホテル日航金沢 3F ルミエール

座長：福岡 美紀 (福井県薬剤師会 理事)

O-08-5

調剤業務トータル支援 IT システムの開発 (第 30 報)

バーコード表示した医薬品充填作業時の調剤ミス防止に対する有用性の確認

南 陽介¹、吉川 香奈美¹、関原 弘喜²、片寄 勝邦²、
梶田 賢司²、宗本 忠典²、中村 信也³、中室 克彦⁴

1:すずらん薬局 [奈良県]、2:株式会社 クカメディカル、3:東京家政大学家政学部、4:摂南大学

【目的】

当薬局グループは独自開発したバーコードを利用する調剤業務トータル支援 IT システム (以下 IT システム) を保険薬局へ導入し、調剤ミス低減を実現してきた。これまでに IT システムのデータ解析により、薬品棚への医薬品充填作業 (以下充填) によるミスは、医薬品採用数増加に伴い増え、忙しくない時間帯にも発生する事を発表してきた。厚生労働省は平成 14 年に「医療安全推進総合対策」をとりまとめ、その中で「バーコードチェックの利用により製品の区別が正確かつ容易に行いうるため、国は製品のコード表示の標準化について検討を進める必要がある」とし、さらに医療用医薬品のトレーサビリティの確保という観点から、「医療用医薬品へのバーコード表示の実施要項」の通知を発した。平成 28 年に開催された「医療用医薬品の流通改善に関する懇談会 (第 24 回)」では、内服薬及び外用薬の調剤包装単位に対するバーコード表示率はほぼ 100 %となったことが公表された。上述のごとくバーコードが利用できる医薬品管理体制が整備された事と、ジェネリック医薬品使用比率が増加傾向にある現状において、IT システムを使用した充填による調剤ミス防止に対する有用性を確認する目的で、間違いやすい医薬品に焦点を絞りエラー解析を実施した。

【方法】

IT システムに保存された充填データ、警告が発せられた充填エラーのデータ解析と別物医薬品を患者へ渡した事例を収集した。調査対象は内科・外科を診察する診療所の門前薬局で、処方箋 1 日平均 64.3 枚、採用医薬品数約 1400 点、調査期間 2017 年 1～12 月、営業日数 294 日で行った。

【結果】

調査期間中に IT システムに記録された充填総件数は 20709 件で、内エラー警告件数は 148 件 (規格間違い 66 件、剤形間違い 21 件、ジェネリック関連 6 件、医薬品棚配置が近いもの 55 件) であった。別物医薬品を患者へ渡した事例は 0 件であった。また、調剤包装単位でのバーコード表示により、PTP シート薬の充填など、以前は目視でしか行えなかった事例についても IT システムが使用でき、ミスがなくなり安心感が増した。

【考察】

IT システムを使った充填を行う事で、誤った医薬品を患者へ渡すことなくあらゆる充填ミスを未然に防ぐことができた。バーコードが利用できる環境が整備されることで IT システムによる医薬品管理が有効となり、IT システムは調剤ミス防止の必須アイテムとなりうる。



【キーワード】

IT システム、バーコード、充填

